

基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫

—「伝え合う力」を高めるための話す・聞く活動を通して—

糸満市立西崎中学校教諭 宮 城 伸 子

内容要約

「伝え合う力」と「話すこと・聞くこと」を関連づけて考えると、実は「書く力」が欠かせないことがわかる。「話すこと」の脈絡は、文、文章の脈絡である。そのため、音声言語に発展させる前の「書く」段階が重要になってくる。

そこで、「書くこと」の指導の過程で、「話す内容」を準備する。次にスピーチの場を設定し、相互交流し合うことによって、「伝え合う力」を高めることができると考えた。それらの指導過程における学習指導の工夫によって、基礎的・基本的事項の定着を図ることができた。

【キーワード】 伝え合う力 話すこと・聞くこと 書く力 スピーチの場の設定
相互交流 基礎的・基本的事項の定着

目 次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究仮説	61
III	研究内容	61
1	基礎的・基本的な内容と基礎的・基本的事項の捉え方	61
2	「伝え合う力」とは	62
3	「話すこと・聞くこと」に関すること	62
4	個に応じた指導	63
5	相互交流の「場」の設定	64
6	評価方法の工夫	64
IV	授業実践	64
I	単元名	64
2	単元設定の理由	64
3	単元の学習目標	65
4	単元の指導目標	65
5	指導の工夫	65
6	単元の指導計画	66
7	本時の指導計画	66
8	研究の考察	69
V	研究の成果と今後の課題	70
1	成果	70
2	今後の課題	70

基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫

—「伝え合う力」を高めるための話す・聞く活動を通して—

糸満市立西崎中学校教諭 宮 城 伸 子

I テーマ設定の理由

新学習指導要領において重視されている「生きる力」をはぐくむためには、「自ら学び、自ら考え」「主体的に判断し、行動する」主体（自己）をもつことが重要である。それに伴い、国語では、最も基本的なねらいとして、言語教育としての立場を重視して国語による表現力と理解力の育成、伝え合う力の向上を図ることを明確化している。「伝え合う力」は、今回の改訂で特に重視されている力であるが、それは、適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉によって伝え合い、わかり合う力のことである。「伝え合う力」と「話すこと・聞くこと」を関連付けて考えると、実は「書く力」が欠かせないことが分かる。「話すこと」の脈絡は文、文章の脈絡である。そのため、音声表現に発展させる前の「書く」段階が重要になってくる。国語科教育の目指す生徒像とは、それらの能力・力を身につけ、実生活の場で活用していくことのできる生徒であると考えられる。

これまでの授業実践を振り返ってみると、「話すこと・聞くこと」の意図的、計画的授業の展開が少なかった。「どんな力」を「どれだけ」つけさせることが出来たかという疑問も残る。例えば、感想等が書けない。または書くことはできるが発表しない。発表者を意識してメモを取りながら聞くように指導をしているが、なかなかメモがとれない。書けない生徒、発表をしない生徒への援助、聞く、話すためのメモを取る手だての不足を感じる。また、生徒たちの会話から、自分の考えだけを話して相手の話を聞いていないことが多いことに気づく。さらには単語だけの会話で終わってしまう場合もある。日常生活に必要なコミュニケーションスキル（ソーシャルスキル）の不足や論理的思考が働いていないことが考えられる。

したがって、「伝え合う力」を高めるために、「話すこと・聞くこと」の能力を育てるための学習指導の工夫を図らなければならない。そのためには、先述した不足をどう解決していくかが課題となる。まず「書くこと」の指導の過程で「話す」内容を準備する。次に、スピーチの場面を設定し、相互交流し合うことによって「伝え合う力」を高めることができると考える。そうすることによって「基礎的・基本的事項の定着を図る」ことが可能になる。

そこで、「伝え合う力」を高めることを目指した学習指導の工夫をすることによって、基礎的・基本的事項の定着を図ることができると考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

「話すこと、聞くこと」の領域において、「伝え合う力」を高める学習指導の工夫をすることによって、基礎的・基本的事項の定着が図られるであろう。

III 研究内容

1 基礎的・基本的な内容と基礎的・基本的事項の捉え方

(1) 基礎的・基本的な内容とは

基礎的・基本的な内容とは、一人の人間としてまたは社会の一員として望ましい人間形成を図る上で必要な資質、能力であり、学習指導要領「第1節 国語」に示された目標や内容である。国語科の基礎・基本とは、日常生活（社会生活）に必要な、生きて働く実用的な言語能力であり、生徒一人一人が確実に身につけることによってコミュニケーションできる言語の力である。生きて働く実用的な言語能力を、教育課程審議会答申の「改善の基本方針」及び学習指導要領の「国語科の目標」に示さ

れた内容から①「国語を適切に表現し正確に理解する力」②「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力」③「目的や場面に応じて的確に話したり書いたりする能力」の3つの能力としてとらえた。

(2) 基礎的・基本的事項とは

基礎的・基本的事項とは、学習指導要領「第1節 国語」に示された目標や内容に基づき、沖縄県教育委員会が平成14年度に作成した「基礎的・基本的事項事例集」の中に示されている「基礎的・基本的事項」の具体的な内容を指す。この事例集を活用することで、各学年の各領域における基礎的・基本的事項の定着へ向けて、課題の明確化と個に応じた指導の工夫が可能になる。

(3) 主に定着を図りたい基礎的・基本的事項

(1)に挙げた①、②、③の3つの能力と生徒の実態に即し、本研究において主に定着を図りたい基礎的・基本的事項を下記の通りとした。()は「基礎的・基本的事項事例集」における基礎的・基本的事項の記号・番号を示している。

① 自分の考えや気持ち、立場などをきちんと整理して話すこと。	(Aアー①)
② 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して話すこと。	(Aアー②)
③ 話の中心となる話題や要点、話し手の考えや気持ち、立場などをとらえ、話し手の意図を考えながら話の内容を的確に聞き取ること。	(Aアー③)
④ 話題を具現化する材料としての話材を適切に選択すること。	(Aイー①)
⑤ 話材は、自分自身が直接体験したことだけでなく、見たり聞いたりしたことなどからも幅広く選び取っていくこと。	(Aイー②)
⑥ 相手の話を注意深く聞き、自分の考えをまとめること。	(Aエー②)
⑦ 話題に関する情報を収集し、それをもとに自分の考えをまとめること。	(Bアー②)
⑧ だれに、どんな目的で、どんな内容を伝えたいのかをはっきりさせるという相手意識や目的意識を明確にして選材すること。	(Bウー②)
⑨ 学習集団の中で友人と相互に文章を読み合い、自分とは異なる題材のとらえ方を参考にすること。	(Bオー①)

2 「伝え合う力」とは

中学校学習指導要領には「伝え合う力」について、「適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながらことばによって伝え合い分かち合う力である。」と述べられている。

(1) 「伝え合う力」の具現化

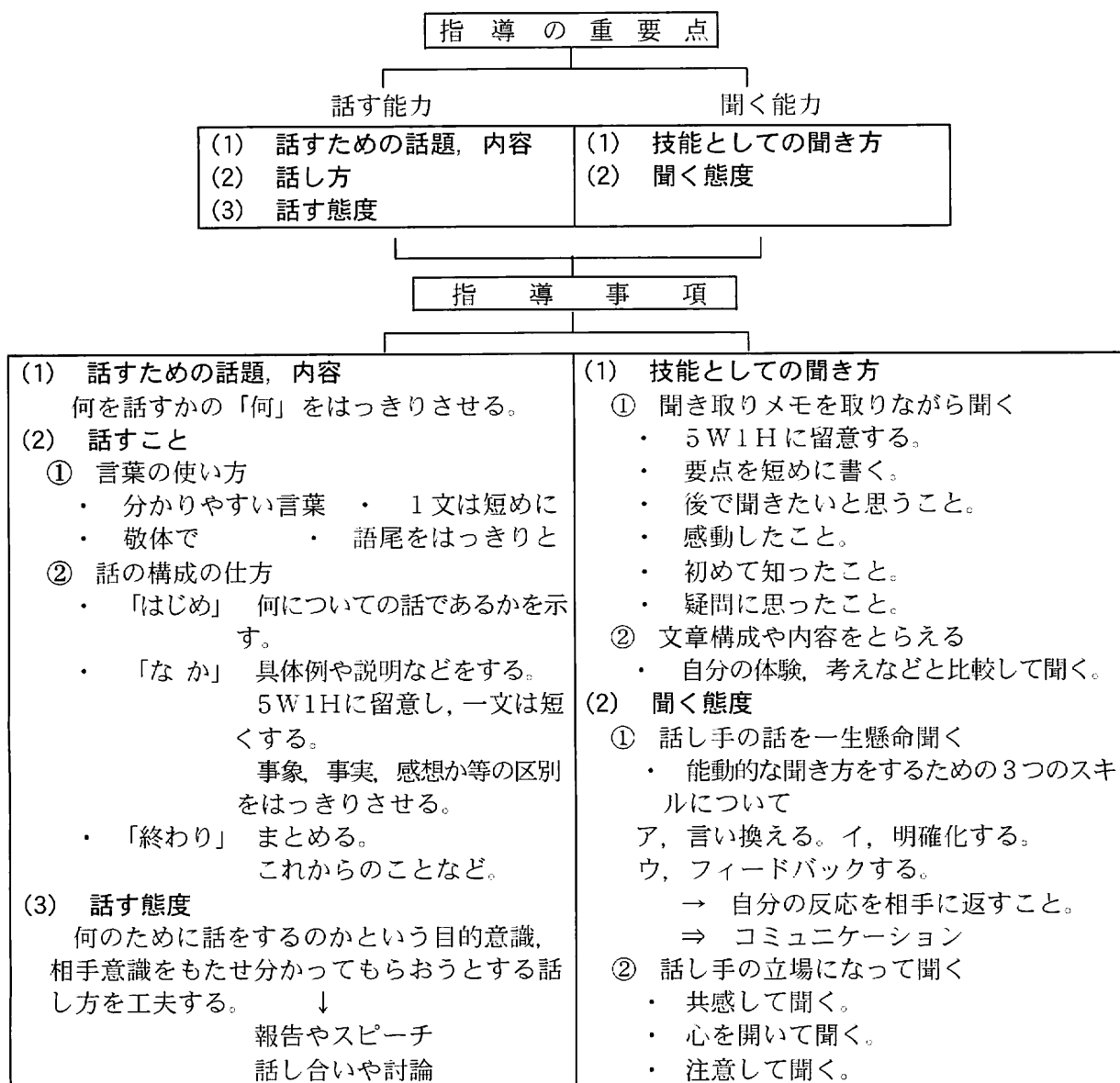
位置付け	日常の言語生活や社会生活を営む上で必要な言語能力 社会人として必要とされる言語能力
言葉の教育	「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う」ための、生徒が互いに、交流し合う(相互交流)学習の展開
求める力	お互いを深く理解し合う力、よりよい人間関係を拓く力、自律・協調する力
ねらい	人生をより豊かにするとともに、「国際社会に生きる日本人としての自覚を育成する」こと
授業実践	問題意識や相手意識をもたせ、「実の場」における場面性や人間関係の中で基礎的・実践的な伝え合う力を養うよう創意工夫する。 伝え合うための中身を充実させる指導の工夫

(2) 「伝え合う力」の育成上の課題

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① 言語・非言語のレベルの問題 | ② 問題社会的・文化的なレベルの問題 |
| ③ 人間関係・人間理解のレベルの問題 | ④ 価値観・生き方などのレベルの問題 |

3 「話すこと・聞くこと」に関すること

「話すこと」と「聞くこと」とは、言語活動としては密接に関連し合うものであるが、言語能力としてはそれぞれ「表現」「理解」というまったく異質なものである。そこで、「話す能力」と「聞く能力」に分け、なおかつ相互の関連付けをし、「話すこと」と「聞くこと」を意識しながら指導事項をまとめると下記の通りになる。



4 個に応じた指導

(1) ティームティーチングによる指導

ティームティーチングの重要な目的は、個に応じた指導の**充実**することである。言葉の教育は他との相互交流の中ではぐくまれるものであり、めざすところは日常生活におけるコミュニケーションの充実にある。「A話すこと・聞くこと」の学習は、特に、具体的に話し合う（スピーチ、対話、討論、朗読会などの例）という学習活動が中心になる。ゆえに、生徒一人一人の言語活動が十分に保証され、かつ目の届く指導形態の工夫が必要である。

(2) ティームティーチングの効果的な運用例

- ① 生徒の興味・関心等に応じた学習課題（話題）の選択に対応して指導を行う。
- ② 生徒の言語能力の習熟の程度や文章能力などに応じて指導を行う。
- ③ 「話し手」「聞き手」等の活動形態に応じて分担して指導を行う。
- ④ グループなどの学習集団を分担して指導を行う。

(3) ティームティーチングの利点

- ① さまざまな視点から生徒の実態をとらえ、指導のあり方を考えることができる。
- ② 教師の持ち味や得意分野を生かした支援ができる。
- ③ 多くの生徒に目が行き届き、個に応じた指導、アドバイスができる。
- ④ 対話形式で、個に応じた説明などができる。

5 相互交流の「場」の設定

「話し手と聞き手はいつでも転換できなければならない」（安居）と述べているように、相互交流の「場」においては、「話し手」「聞き手」の立場が固定してしまわないことが重要である。言葉の教育は他との交流を通してはぐくまれることを考えると、このような「実の場」の設定が必要となる。

6 評価方法の工夫

評価は、教師側にとっては個々の達成度を知る手がかりとなると同時に、次の指導への課題の明確化にもなる。生徒にとっては自分自身を振り返りつまづきを知り、次へのステップにつながるものにならなければならない。つまり「指導と評価の一体化」が重要であり、累積による評価の工夫が必要になる。

IV 授業実践

1 単元名

7 ことばをとどける 「スピーチで振り返ろう」

2 単元設定の理由

(1) 教材観（省略）

(2) 生徒観（省略）

(3) 指導観

明るく素直な生徒が多く、全体的にはまとまりのある学級である。「話すこと」に関しては、おしゃべりは好きだが、発表はどちらかというと苦手な生徒が多い。恥ずかしいというのが大きな理由である。また、既習の「討論ゲーム」では、相手の話に対して自分の考えを述べることも消極的であった。「聞くこと」に関しては、話し手の意図を考えながら聞いていないため、自分の考えをまとめることができないのが現状である。

「スピーチで振り返ろう」は、体験した事を単なる世間話として終わらせるのではなく、聞き手を意識し話すことや話し手の意図を考えながら聞くための学習にふさわしい教材である。どんな体験をして、その時どんなことを考えたのかを、人に聞かせる話として再構成することで、自分の考えをまとめ、わかりやすく話すという能力が身についていくのではないかと話したいことがいくらあっても単語だけを並べ、聞き手の存在を無視して一方的に話すだけでは、いい話し手にはなれない。そこで、自分の考えや気持ちをきちんと話すことが大切になってくる。比較的パブリックな場面で、ひとまとまりの談話を大勢の人の前で行うことは、精神的にも多くの負担と困難を伴う。そこで、はじめに、スピーチのための基礎知識についての学習、次にスピーチをするための具体的な準備（選材・話の構成・話し方の工夫など）、最後にスピーチの発表の全8時間を計画した。スピーチの原稿を準備してアドバイスし合い、よりよいスピーチになるように工夫する。話す内容を決める段階では「ことばの地図」づくりを、話の流れや組み立てを考える段階では「ことばの地図」を参考に「スピーチ原稿」「スピーチメモ」の作成をさせ、原稿なしでスピーチできる生徒が1人でも多くなるように工夫したい。また、スピーチで交流する「場」を設定し、人の話を関心をもって聞く、相手の立場を尊重して聞く、話の内容を理解して聞く能力も伸ばしたい。そのために「聞き取りメモ」の工夫、話の聞き方のルールなど、聞き手側の学習も保障されるようにする。

「スピーチ」の発表、交流をすることでコミュニケーションのあり方について理解を深め、「伝え合う力」を高めると共に、「話すこと・聞くこと」の楽しさを味わわせたい。

3 単元の学習目標

- (1) 適切な話材を選び、工夫してスピーチし、その意図を考えながら聞く。(Aーア, イ)
- (2) スピーチを振り返り、思いや考えを明確にする。(Bーイ, オ)

4 単元の指導目標

- (1) 聞き手を意識して、わかりやすく話す力を育てる。：基礎・基本の定着：スキルの習得「話すこと」
 - ① 話材は身の回りにたくさんあることを気づかせる。「関心・意欲・態度」
 - ② ふさわしい話題を選び、スピーチの組み立てを考えさせる。「書くこと」

- ③ スピーチメモを活用すると、話しやすいことを知らせる。「話すこと」
- ④ 声、姿勢などを意識して、生き生きと話すことの大切さを知らせる。「話すこと」「言語事項」

(2) 話し手の話を、しっかり聞く力を育てる。「聞くこと」

- ① 関心を持って話を聞くためには、聞き取りメモを活用することが大切であることを知らせる。
- ② 正確に聞くためには、聞く視点をもつことが大切であることを知らせる。

(3) 聞き手と話し手が、お互いに尊重し合って交流し合える環境作りをする。：ソーシャルスキル

- ① 相手の話を関心を持って聞き、自分の考えをまとめて伝えることの大切さを知らせる。
- ② 話をしたり、聞いたりする時のルールの大切さを知らせる。「関心・意欲・態度」

5 指導の工夫

(1) 個に応じた指導の工夫（ティームティーチングによる指導）

- ① 「書くこと」における指導： 話題の決定をする段階、「ことばの地図」を活用して話材を広げ、話材を適切に選択する段階、「スピーチメモ」を作成し、スピーチ原稿を仕上げる段階での指導
- ② スピーチ原稿の練り合い： 相互のアドバイスの不足がちな生徒への支援や質問などへの援助
- ③ スピーチの仕方： 声の大きさや速さ等、聞き手を意識した話し方についての支援

(2) ワークシートの工夫

① 短作文を書く工夫

実践ア

- ・ 話題を3つ以上考えさせた後に、隣同士でアドバイスし合い決定させる。

実践イ

- ・ 「ことばの地図」を使って話材を広げさせる。

実践ウ

- ・ 「ことばの地図」を使ってスピーチメモを作成させる。

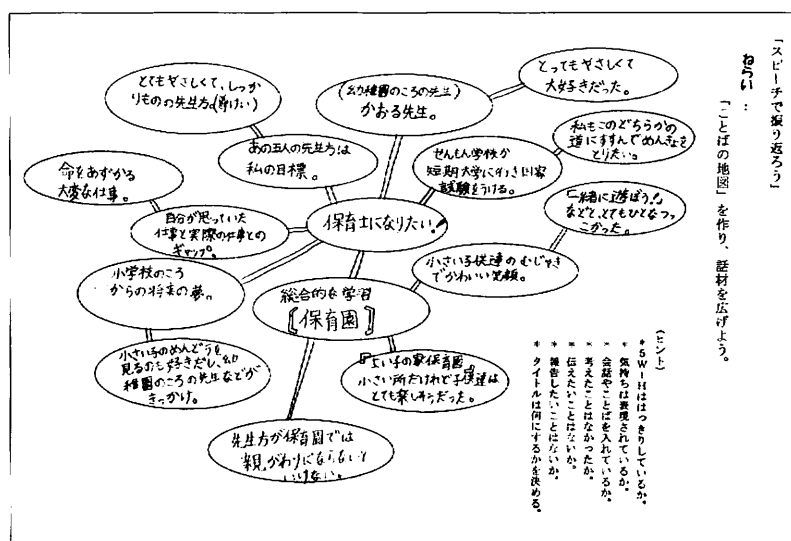
実践エ

- ・ 文章構成上の「はじめ」「なか」「おわり」のそれぞれの役割について確認
 - ・ 「5W1H」の基本の確認
 - ・ 原稿用紙の枚数や時間の提示
- 実践オ
- ・ 相互に読みあい、練り上げをする。

② 評価表の工夫

指導と評価を継続的に累積して基礎的・基本的事項の定着につながる評価の工夫をする。

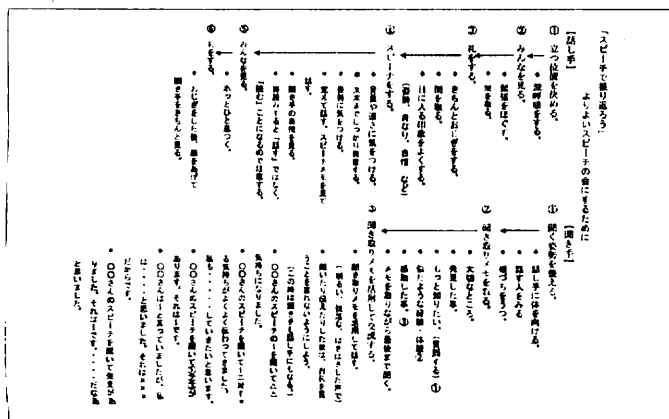
- ・ 「観点別評価表」・「自己評価表」
- ・ 「相互評価表」・「ステップ表」



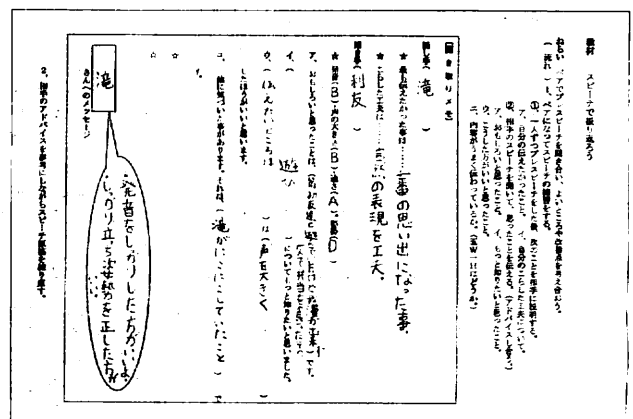
資料1 ことばの地図

資料2 スピーチメモ

次 時	本時の目標	学 習 活 動	指導方法 ★支援 ★評価 (計画)	基礎的・基本的事項
1 (1)	学習の目的を知り、スピーチへの意欲を持つ。	① 本単元の授業の流れを知る。 ② なぜスピーチをするのか、学習の意義とねらいについて理解する。 ③ スピーチを視聴して、学習への意欲を持つ。	○一斉指導 ・本文を読ませる。 ・教師のスピーチ ○ワークシート1 ★観察法 (関心・意欲・態度) ★自己評価	
2 (1)	話題を選び、内容を考える。	① 話題を紹介し合い、アドバイスし合う。 ② 自分のスピーチの話題の決定 ③ 題材を見つける。 3つ以上の話題を考え、隣同士見せ合って決定する。	○TTを組む (個に応じた指導) ○個別指導 ○ワークシート2、ワークシート3 ・「ことばの地図」を用い、発想を広げる。 ★自己評価	Bウー② Aイー②
3 (1)	スピーチの組み立てを考える。 文章化する。	① スピーチの組み立てを考える。 ・「ことばの地図」を使って絞っていく。 ② スピーチメモを作る。 ③ スピーチメモに従ってスピーチ原稿を作る。	○TTを組む (個に応じた指導) ○対話形式 ○個別指導 ○ワークシート4 ★観察法 ★自己評価	Aイー① Bアー②
4 (1)	よりよいスピーチについて考え合う。	① よりよいスピーチ会にするために、話し手、聞き手の態度や役割について考える。 ② これまでの経験などを振り返り、人前で話す際の自分の課題を見つける。	○一斉指導 ・モデルを立てて実演 ・コミュニケーションスキル (ソーシャルスキル) を取り入れる。 ○ワークシート5、ワークシート6 ★自己評価	
5 (1)	自分のスピーチを練り上げ、スピーチの練習をする。	① 2〜3人でスピーチをし、アドバイスしあうことによって練り上げる。 ② スピーチの練習をする。  面白くない表現だね。 声をもう少し大きくね。 授業風景：練り合いの場面	○アドバイス用ワークシート、ワークシート7 ○TTを組む (個に応じた指導) ○グループ学習 ★自己評価 ★相互評価  授業風景：スピーチする	Aアー③ Aオー①
6 (1)	ブチスピーチ会を持ち、発表し合う。	① 各グループでブチスピーチ会を進める。 ・司会が進行する。(生徒) ② 話し手と聞き手が交流し合う。 「交流タイム」  ブチスピーチ会の風景	・グループ活動にし、全員がスピーチをする場の設定をする。 ・席の工夫 ○進行用シナリオ ○聞き取り用ワークシート①② ○TTを組む (個に応じた指導) ★自己評価 ★観察法	Aアー① Aアー② Aアー③ Aイー②
7 (1) 本 時	スピーチの会を行い交流し合う。	① 全体でスピーチの会を行う。 ・司会が進行する。 ② 話し手と聞き手が交流し合う。「交流タイム」	○聞き取り用ワークシート①② ・司会は教師が行なう。 ★自己評価 ★相互評価	Aアー① Aアー② Aアー③ Aイー②
8 (1)	感想を交流し合って目標の達成を確認し合う。	① 全体でスピーチの会を行う。 ② 感想を発表し合う。(評価)  授業風景：感想に聞き入る生徒ら 私の感想に近いなあ…… そうだよー。	* 検証授業の反省を生かし、メッセージを自由に述べる時間を取る。★自己評価 ○ワークシート ★相互評価  授業風景：感想を述べる	Aアー① Aアー② Aアー③ Aイー②



資料5 よりよいスピーチの会にするためのスキル



資料6 アドバイスのためのメモ

(3) 本時の展開 (7/8): 本時

<ねらい> ① スピーチメモを活用してスピーチをしよう。② 聞き取りメモを活用して交流し合おう。

学習活動	○教師の活動	★支援	★予想	☆評価(方法)	形態	基礎的・基本的事項
導入 6分	1. 本時のねらいの確認 2. よいスピーチの会にするために、聞き手の態度や役割、聞く視点などについて確認する。	○「本時のねらいは、①スピーチメモを活用してスピーチをしよう。②聞き取りメモを活用して交流し合おうです。ねらいが達成できるように頑張りましょう。」 ○「よいスピーチの会にするための確認をしておきましょう。」	★前時の確認なのであまり時間をかけない。 ★板書の工夫、特に大切なことを板書し、掲示する。 ★ワークシートの工夫		一斉	
展 開 39分	3. スピーチをし、後の「交流タイム」で語り合う。 (1) 説明を聞く。 (2) スピーチをする。メモをとりながらスピーチを聞く。 (3) メッセージを書く。 (4) 交流をする。	○「これからスピーチの会、『交流タイム』を始めます。」 ★活動が停滞しないように持ち方に配慮する。教師が司会をする。 ○「進め方とワークシートの使い方について説明します。配られたワークシートを見ましょう。」 ① 司会による紹介(1分) ② スピーチ発表(1~2分) ③ 聞き手からのメッセージを書く。 ④ 聞き手からのメッセージを2~3紹介	★前に立ったら話し手の顔を見る。 ★メモを活用して「話す」ことを意識させる。 ★聞き取りメモを書く。 ★積極的に手が挙がるようにするが、挙がらないときは指名し、全員に話す機会を作るようにする。 ★メモに集中しすぎる ★生徒同士の相互評価をする(メッセージ用紙の活用) ★自己評価をする。		一斉	Aアー① Aアー② Aアー③ Aアー②
	 スピーチの風景					
	 メッセージを伝える場面					
				聞き取り用メモ (メッセージ用も含む)		
まとめ 5分	4. 評価する。 5. 次時の予告を聞く。	○「自己評価をしましょう。」 ○「これまでの授業をふりかえって、みんなの感想を聞きたいと思います。心の準備もしておきましょう。」			一斉	

(4) 観点別評価を含む評価計画の作成

観点	具体的評価目標	方法	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) ○手だて
関心 意欲 態度	スピーチの意義や目的を知る。	観察	スピーチの意義や目的についての理解を深め、スピーチをしたいという意欲を持つ。	スピーチの意義や目的について理解し、スピーチをしたいという興味をわく。	スピーチの意義や目的について関心がない。 ○ 身近なスピーチの例等を聞かせる。
書く こと	適切な話題を選び、決定する。 話題を広げる。	ワークシート	相手や場にふさわしい話題を選び、話題を具体化する材料としての話題を幅広く広げ適切に選択することができる。	相手や場にふさわしい話題を選び、話題を具体化する材料としての話題を適切に選択することができる。	話題を見つけることができない。題材を広げられない。 ○ 興味をもちそうな話題を対話法で導く。(T Tによる指導)
	スピーチメモを作成する。		題材の取集をし、相手意識や目的意識を明確に取捨選択をし、スピーチメモを作成することができる。	題材を収集し、スピーチメモを作成することができる。	スピーチメモを作成できない。 ○ スピーチメモの取り方を個別指導で行う。(T Tによる指導)
	スピーチ原稿を書く。	作文	スピーチメモにそって、相手意識や目的意識を明確にして文章化する事ができる。	スピーチメモにそって、文章化する事ができる。	スピーチメモにそって、文章化する事ができない。とても時間がかかる。 ○ メモに沿ってことばを膨らませる作業を根気強く取り組ませる。(T Tによる指導)
話す こと・ 聞く こと	よりよいスピーチについて考え発表する。	発言観察	よりよいスピーチとはどんなものかについて真剣に考え、相手の意見と比較しながら積極的に発表し理解することができる。	よりよいスピーチについて真剣に考えて発表する。	よりよいスピーチについて理解していない。 ○ 自分の体験を通してどうしたら楽しく話したり聞いたりすることができるかを考えさせる。
	スピーチ原稿の練り上げをする。	ワークシート	〈話し手〉スピーチ原稿を読み、伝えたいことや発表の工夫について説明できる。 〈聞き手〉友達のスピーチを、その意図を考えながら聞き取り、よい点や改善点をアドバイスできる。	〈話し手〉スピーチ原稿を読み、聞き手の質問に答えることができる。 〈聞き手〉友達のスピーチを、その意図を考えながら聞き取り、よい点や改善点に気づく。	〈話し手〉スピーチ原稿を読む。 〈聞き手〉友達のスピーチに関心を示さず、よい点や改善点に気づかない。 ○ ペアでやる意義を伝え、目的をしっかりと理解させる。
	発表し、交流し合う。	ワークシート 発言観察	〈話し手〉相手や場にふさわしい話題を選び、聞き手を意識し、スピーチメモを見ないで話すことができる。 〈聞き手〉聞き取りメモを取り、相手の話を注意深く聞き、質問などを通して話し手と交流できる。	〈話し手〉相手や場にふさわしい話題を選びスピーチメモを見て話すことができる。 〈聞き手〉聞き取りメモを取る事ができ、感想を述べる事ができる。	〈話し手〉スピーチ原稿を棒読みしている。 ○ 聞き手を意識させる意味でも、まずは原稿の「始め」、「終わり」の部分を感じる努力をさせる。 〈聞き手〉聞き取りメモを取る事ができない。 ○ 5W1Hを意識させたり、項目を設けたワークシートの工夫をする。

8 研究の考察

(1) 定着を図りたい基礎的・基本的事項について

検証の視点 1

- | | |
|--------------------------------|--------|
| ① 自分の考えや気持ち、立場などをきちんと整理して話すこと。 | (Aアー①) |
| ④ 話題を具現化する材料としての話材を適切に選択すること。 | (Aイー①) |

- ・「ことばの地図」で広げた話材から、話題を具現化する材料としての話材を適切に選択し、「スピーチメモ」の作成をした。その後、全員が原稿を仕上げスピーチに臨み、プチスピーチの会では全員が発表できた。半数以上の生徒が原稿に頼らず、あるいは、スピーチメモを活用して「話す」ことができた。「恥ずかしかったけれど、発表してよかった。」「自分のことをわかってもらえて嬉しい。」などの感想から、自分の考えや気持ちを整理して話すことができたことが分かる。

表1「評価カード」より

項 目	%
メモや原稿に頼らない	3 4
メモを活用した	2 3
メモや原稿に頼った	2 6
最後まで原稿を見た	1 7

検証の視点 2

- | | |
|---|--------|
| ② 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の使い方や文の整え方、話の展開の仕方などを工夫して話すこと。
〔言語事項〕の(1)ーアにも通じる | (Aアー②) |
| ⑨ 学習集団の中で友人と相互に文章を読み合い、自分とは異なる題材のとらえ方を参考にすること。 | (Bオー①) |

- ・スピーチ原稿の練り合いの「場」を設定し、相互に読み合いアドバイスし合った。(資料6)「声の大きさや速さなど注意された。」「ことばをはっきりした方がいい。」の感想から、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方等話し方の練習の「場」にもなった。また「ピオスの丘に行ったなどの話題は同じなのに話材が違っていった。」の感想から、自分とは異なる題材のとらえ方の参考になる「場」にもなった。
- ・スピーチメモの下欄に発表するための工夫を書かせ(資料3)、スピーチの際に役立てる工夫をするなど、「話すこと」への抵抗感が少なくなるよう心がけた。「スピーチメモは案外使えるなあと考えた。」「スピーチメモがあると、スピーチがしやすいと思った。」「自分のことを話すのは恥ずかしかったけれど、言った後はすっとした。作品も見せた。」等の感想からも分かるように、話の展開の仕方などを工夫して話すことにつながり有効であった。

検証の視点 3

- | | |
|--|--------|
| ⑤ 話材は、自分自身が直接体験したことだけでなく、見聞きたりしたことからも幅広く選び取っていく。(Aイー②) | (Aイー②) |
| ⑦ 課題に関する情報を収集し、それをもとに自分の考えをまとめること。 | (Bアー②) |

- ・9月の既習学習(「意見文を書く」)では文章を仕上げ、発表するまでの指導を行った。今回の「書く」学習において工夫した「ことばの地図」は、話題に関する情報(話材)を収集し、自分の考えをまとめる手だてに活用した。教え合ったり、見せ合ったりすることで、情報収集にも役立った。また、自分自身が直接体験したことだけでなく、見たたり聞いたりしたことなどからも幅広く選び取っていくことにも配慮させた結果、全員自分の考えをまとめるための話材を広げることができた。

検証の視点 4

- | | |
|--|--------|
| ③ 話の中心となる話題や要点、話し手の考えや気持ち、立場などをとらえ、話し手の意図を考えながら話の内容を的確に聞き取ること。 | (Aアー③) |
| ⑥ 相手の話を注意深く聞き、自分の考えをまとめること。 | (Aイー②) |
| ⑧ 相手意識や目的意識を明確にして選択すること。 | (Bウー②) |

話し手と聞き手が互いに尊重し合って活動できるように、よりよいスピーチの会にするためのスキル(資料5)の取得のための指導、「話題の決定の仕方」や「スピーチメモの作成」、「聞き取りメモの取り方」などの工夫をした。

- ・「話題の決定の仕方」については、事前に3つの話題を考えさせ、隣同士見せ合って興味・関心のある話題の決定をさせた。また、スピーチのためのスキルの取得も自信につながり、その結果、いい雰囲気でのスピーチの会も展開した。

- ・聞き取りメモに「聞き取り用」と「メッセージ欄」を設けた。

表2からも分かるように、メモを取りながら聞くことができ、話

表2「評価カード」より

項 目	%
メモを取ることができた	9 1
メモを取ることができない	9
交流会で発言できた	8 3
交流会で発言できなかった	1 7
メッセージを伝えた	7 0
メッセージを伝えたが自信がない	2 5
全員に書けなかった	5

話し手の意図を考えながら聞き取っている事が分かる。「いろいろなスピーチを聞いて、その人のことがよく分かった」の感想から、相手の話を注意深く聞き、話題の中心や話し手の気持ち、立場などを考えて聞くことができたことかわかる。「難儀だけど後で助かる。」「忘れないよう

にメモに取る。」「相手にうまく伝えるためにとる。」など、「聞き取り用メモ」を活用して自分の考えをまとめ交流会の発言に活用していたことが分かる。

- ・「メッセージ欄」の活用によって、「相手の立場を考えて書いた。」「みんなの気持ちを知ることができ、すごいと思うところを書いた。」「後でみることができ、思い出すことができる。」などメッセージをことばや文字で相手に伝えることができ、「聞く能力」が少しずつ身に付いてきていることが分かる。同時に「伝え合う」ことの大切さを知ることによって「伝え合う力」につながり、高まってきた。

(2) 学習指導の工夫について

① ティームティーチングによる指導

「書く指導」においては、既習学習での生徒の実態も考慮し、支援や質問に対するアドバイスを、主に対話形式で行った。その結果（表3）、「話材を広げることができる」項目では全員がねらいを達成した。指導方法の工夫が功を奏した。生徒の感想に「質問がしやすいし、いろいろ聞きやすい。」「いろいろアドバイスしてもらってグループの発表の時上手にできた。」「やる気も出た。」「できなかったことができるようになった。」「機会があったらこのような授業をして欲しい。」のほかに「授業がスムーズに進んだと思う。」から、分かる喜び、できる喜びを味わうことができ、次のステップへの「やる気」にもつながった。

- ② 既習学習で定着の図れなかった生徒への個別指導は、学習の仕方、文章を書く方法等を得させるのに有効であった。「書く指導」においては毎回試みているが、今回も時間との勝負であった。

- ③ アンケートの結果（表4）から「話すこと・聞くこと」への抵抗が減ったことが分かる。また「自分の考えや気持ちを的確に伝えようとする」「相手の立場に立って聞こうとする態度」「相手の考えや気持ちを聞き取る力」が身に付いてきたと言える。「お互いの交流があってプチスピーチの会、スピーチの会が楽しかった。」

「お互いに読み合ったところはよかった。」の感想から、「実の場」の設定が有効であることも分かる。全体の感想に「みんないいスピーチをしてきて、こんな事もあるんだ、すごいと思うこともいっぱいあった。今度はみんなの前でスピーチしたい。」「分かった事がたくさんあった。」

「いろんな表現ができるんだなと勉強になった。」「恥ずかしいと思う気持ちが少しなくなりました」「スピーチの楽しさが分かりました。」「自分が少し積極的になったように思う。」「みんな真剣に聞いていたところがよかった。」「ステップ表で授業の流れがわかってよかった。」等があり、充実していたことがわかる。

表3 「評価カード」より（35名中）

項 目	既 習	今 回
話材を広げることができる	2 5	3 5
材料の組み立て、メモの作成	2 7	3 1

表4 「話すこと・聞くこと」に関する
アンケート結果 （35名中）

項 目	事前	事後
話すことは好きですか。	5	25
話すことは上手ですか。	3	14
聞くことは好きですか。	28	30
聞くことは上手ですか。	5	17
感じたことや思ったことを発表する（伝える）ほうですか。	5	15
他の生徒の発表を聞いていますか。	29	31
他の生徒の発表に対して自分の考えを述べますか。	8	14
話を聞くとメモを取っていますか。	19	25
メモ欄を活用していますか。	19	31

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 「書くこと」の指導の過程を工夫する事によって、全員スピーチすることができた。
- (2) スピーチメモ、聞き取りメモの活用によって、「話す・聞く」能力が高まった。
- (3) スピーチの会を設定し相互交流することにより、言葉や文字による「伝え合う力」が高まり、基礎的・基本的事項の定着につながった。

2 今後の課題

- (1) 基礎的・基本的事項の定着を図るための指導法の工夫・改善
- (2) 「伝え合う力」を高めるための「実の場」の設定の工夫

<主な参考文献>

沖縄県教育委員会	『基礎的・基本的事項事例集〔平成14年度改訂版〕』	2002年
安居総子著	『中学校の表現指導聞き手話し手を育てる』	国語研究会 1994年